



退職予定隊員41人に再就職教育

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、5月15日（火）から18日（金）までの間、板妻駐屯地（御殿場市）において「陸士就職補導教育」を実施した。同駐屯地所在の第34普通科連隊と第3普通科直接支援中隊から、平成30年度任期満了退職予定隊員など41人が参加した。この教育は、部外教官等による雇用・就職・援護状況の説明や職業適性検査等の実施とともに、併せて民間企業の職場を実際に訪問して研修を行った。研修では、警備・輸送業務を行う企業を訪問し、自衛隊から再就職した社員から業務内容などについて話を聞いた。参加した隊員は、今後の進路選択の参考にしようと、終始真剣な面持ちで教育を受けていた。



県内の若者が海自ヘリで房総半島と東京湾を上空から満喫

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、5月26日（土）、海上自衛隊館山航空基地（千葉県館山市）で行われたSH・60K哨戒ヘリコプターの体験搭乗に参加者を引率した。これは、将来パイロットをはじめとする自衛官を目指す若者を対象に実施されたもので、静岡県内からは21人が参加した。

同基地に到着後、参加者はヘリコプター搭乗時の注意事項やフライト経路などについて説明を受け、ヘルメットとヘッドセット、救命胴衣を装着。大きなエンジン音が響き、メインローターの回転で強風を起こしながらエブロン地区に駐機しているヘリコプターに3人ずつ搭乗し、離陸した。機体は時速170kmで約15分間飛行し、参加者は房総半島の新緑や東京湾の青さを満喫していた。着陸後、現役パイロットの説明を聞きながら整備工場で整備中の同型機を間近で見学するとともに、史料館では基地の沿革などの史料を見学し、海上自衛隊の活動への理解を深めた。

終了後、参加者は「ヘリを操縦する自衛官の姿を見て、私もパイロットになって立派な自衛官を目指したいと思った」「このフィールドで活躍できるように、まずは防衛大学校入校を目標に頑張りたい」と熱意ある抱負を語っていた。静岡地本は、今後もこのような自衛官の職場を若者が実際に体験できる機会を積極的に活用し、自衛官を目指す若者たちに夢や意欲を与えるような広報活動を実施し、夢の実現を支援していく。



エアクッション艇に搭乗し、駿河湾に停泊中の輸送艦「しもきた」艦内に進入

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、5月27日（日）、今沢海岸（沼津市）で行われた海上自衛隊のエアクッション艇「LACC」の体験航海及び輸送艦「しもきた」の艦内見学に参加者を引率した。これは、将来自衛官を目指す若者などを対象に海上自衛隊が行ったもので、静岡県内からは17人が参加した。

参加者が集合した今沢海岸のはるか沖合の輸送艦から発進した2艇のLACCが海岸砂地に上陸。参加者は、乗員からLACCの特徴や概要の説明を受けた後、体験航海に移行するため、シートベルトと耳栓を装着してLACCの左右にある臨場者席に乗り込んだ。会話もできないほど大きなエンジン音を轟かせ、LACCは空気を下に噴出させながら浮上し、海岸から水しぶきをあげて一路、「しもきた」へ向けて出発。約15分後、「しもきた」艦尾のドックに入庫したLACCから、参加者は「しもきた」艦内に移動。乗員による誘導で大型車両も載せられるエレベーターに乗り、一気に上甲板へ。そびえ立つ艦橋と360度一望できる広大な甲板からの絶景に、参加者は目を丸くして驚いている様子であった。

その後、甲板上の荷揚げ作業やヘリの管制を統制する揚塔管制室や、乗員の健康管理や不慮の負傷に対応する手術室、長期間の航行中でも治療できる歯科室などを見学した参加者は、充実した艦内の設備にそれぞれ高い関心を示していた。終了後、参加者からは「海岸に近づいてくるLACCの音の大きさに驚いたが、実際に乗ってみると意外と揺れもなく、音も大丈夫だった」「船に隊員の治療や看護をする衛生という仕事があることを初めて知った」といった感想が聞かれた。

静岡地本は、今後も自衛官が働く現場を直接見学できる機会を積極的に活用して、平和を仕事にする自衛官の魅力発信し、自衛官を目指す若者の志願確保に努めていく。

